

# ServerView Suite

## ServerView Installation Manager (SVIM)

### 補足情報

## ■ はじめに

本書は、ServerView Installation Manager の操作上の補足情報をまとめたものです。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルおよび注意事項をご覧ください。

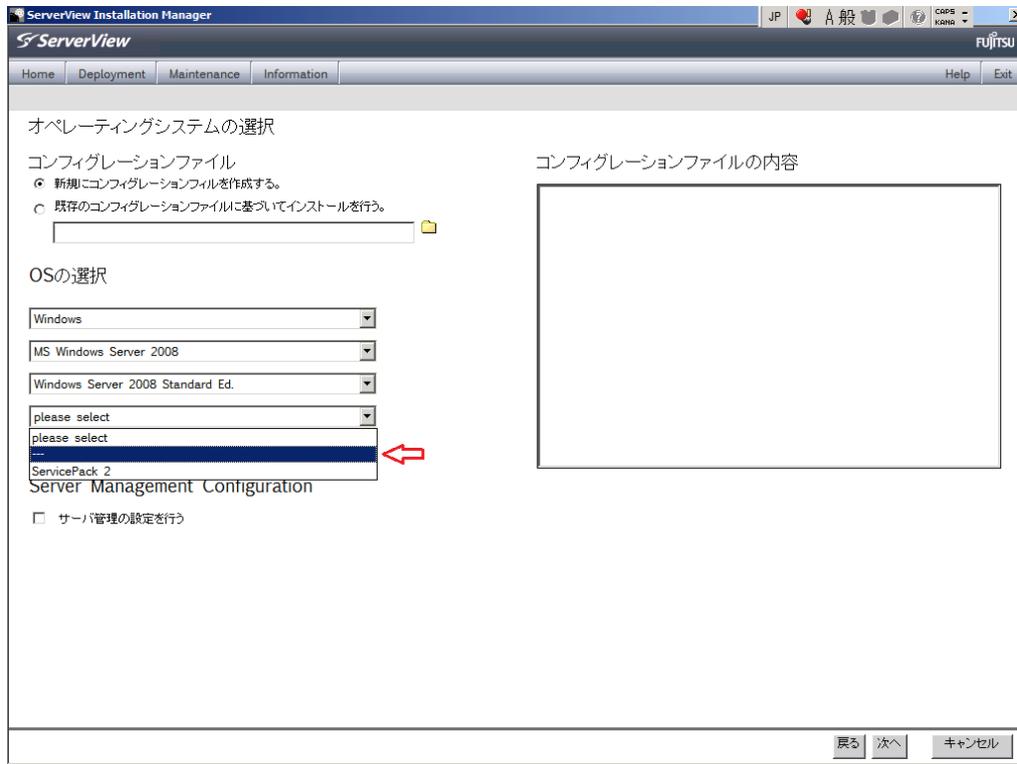
ServerView Installation Manager 取扱い説明書  
DVD1 のソフトウェア注意事項

## ■ 補足情報

### (1) Windows OS 指定時の [---]の意味

OS の選択画面で Windows を指定する場合のリストボックス内の選択肢[---]はサービスパックなしを意味します。

サービスパックなしの Windows OS メディア(RTM 版、サーバ添付のインストールディスク)を使用してインストールする場合に[---]を選択してください。



### (2) Windows をインストールする際のプロダクトキーの入力

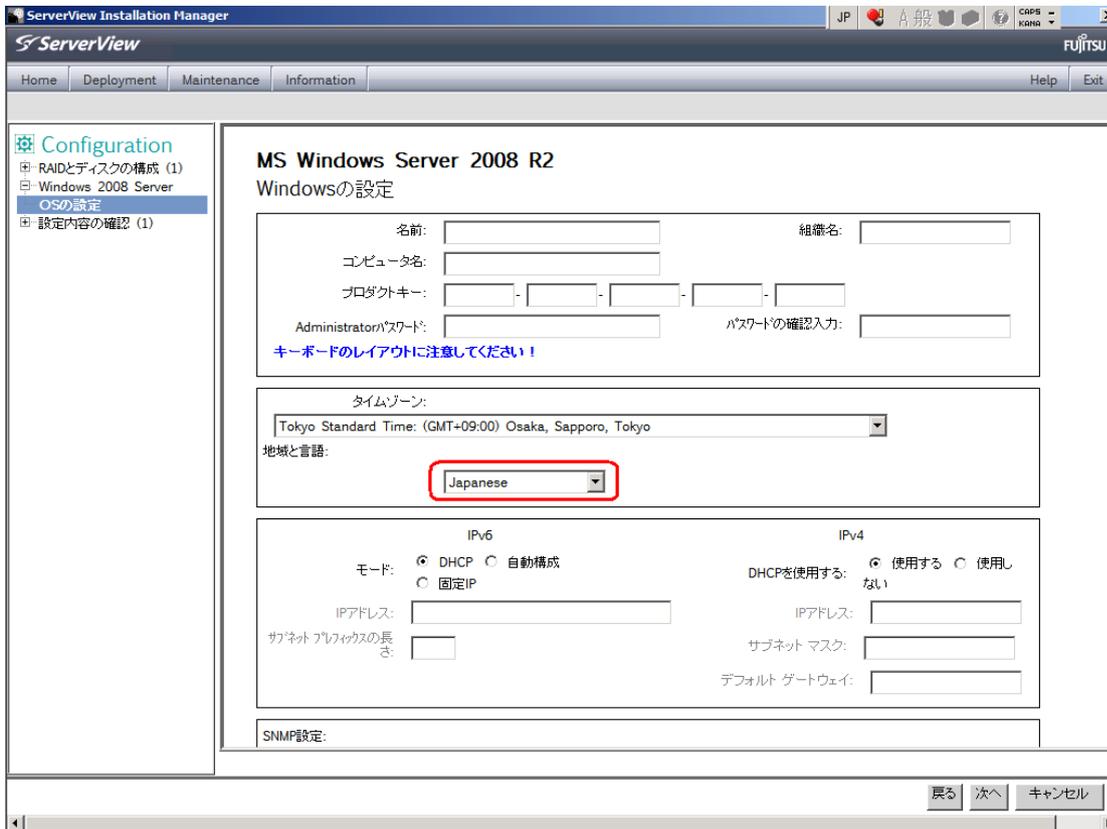
Windows をインストールする際のプロダクトキーの入力はSVIMの設定画面で行います。使用するメディアがOEMメディアの場合はプロダクトキーの入力は不要です。空白のまま作業を進めてください。Microsoft のリテール版メディアを使用する場合、OS インストール中にプロダクトキーの再入力を求められることがあります。入力画面が表示された場合は、再度プロダクトキーを入力してください。

### (3) 「Operating System - Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用したインストールについて

「Operating System - Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用してインストールを行う場合、地域と言語の設定を「Japanese」にしてインストールを行ってください。この設定を行わなかった場合、SVIM でインストール完了後、一部のアプリケーションで文字化けが発生することがあります。

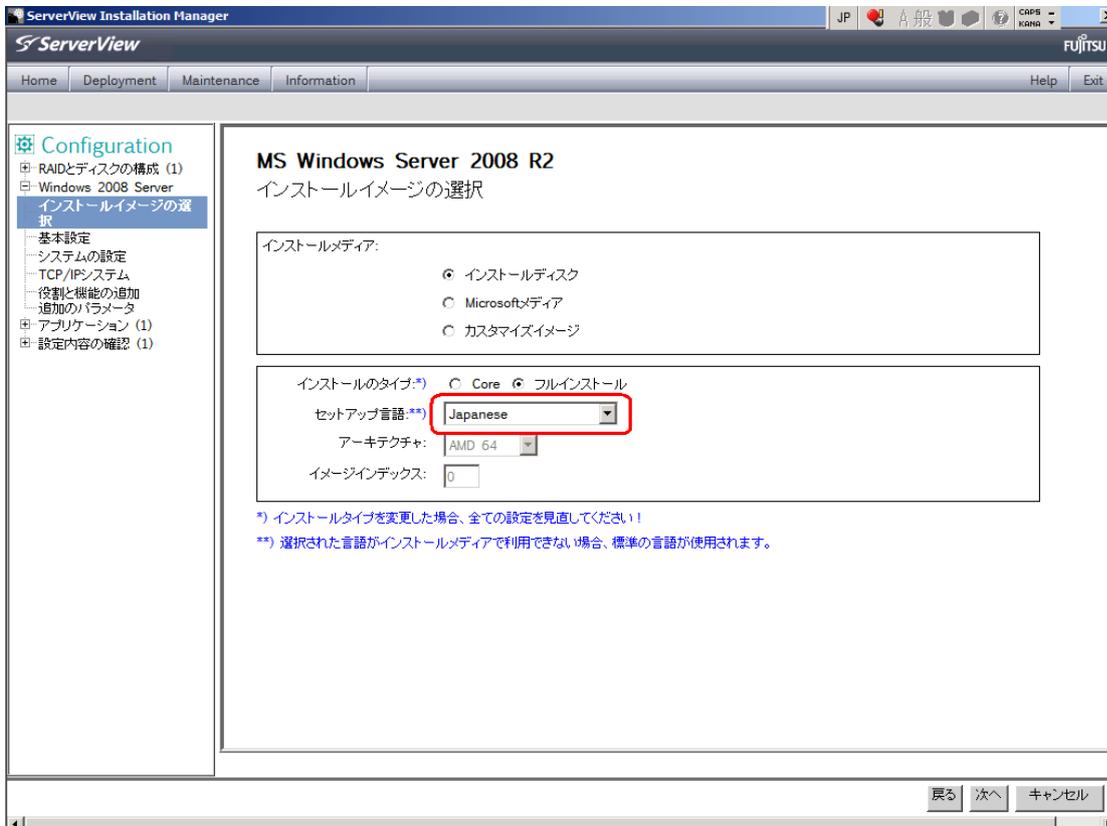
クイックモード:

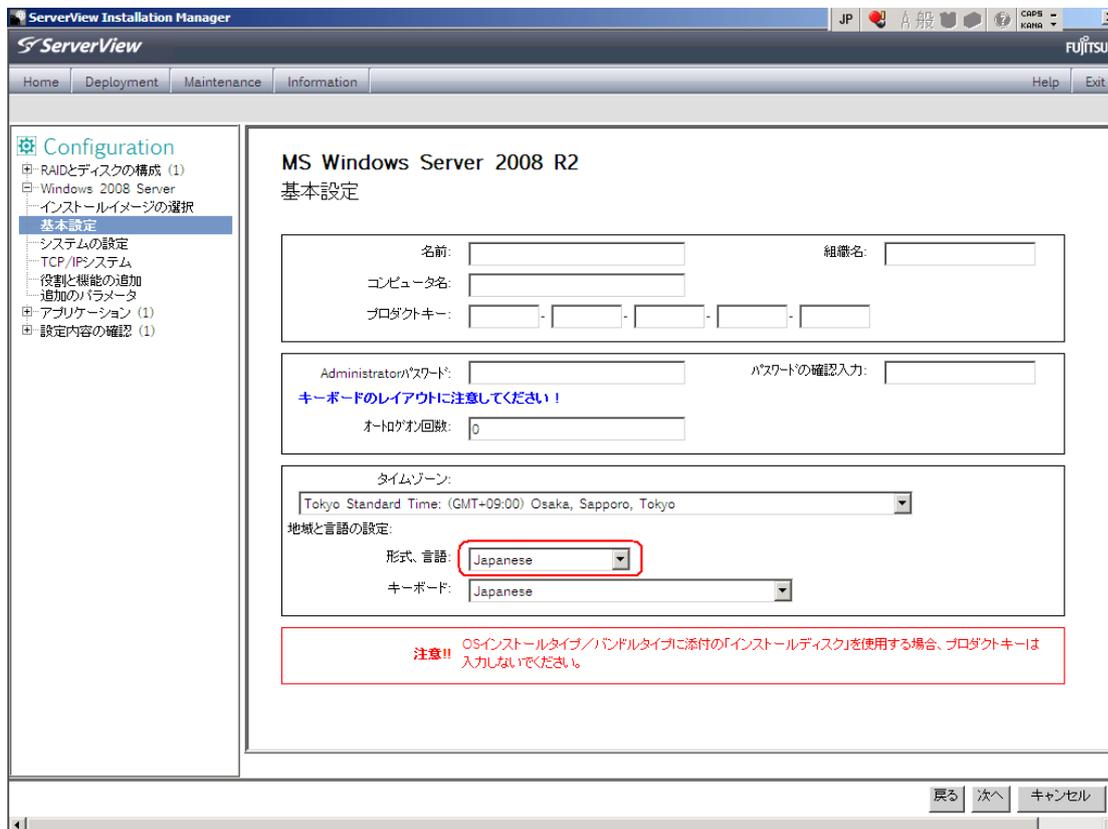
- ・「OS の設定」画面の「地域と言語」で「Japanese」を選択してください。



**ガイドモード:**

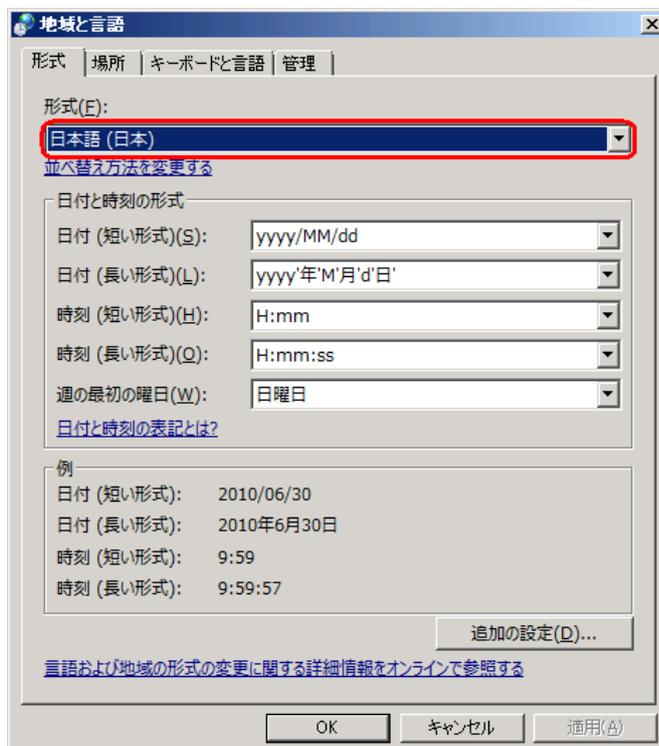
- ・「インストールイメージの選択」画面の「セットアップ言語」、および、「基本設定」画面の「形式、言語」で「Japanese」を選択してください。





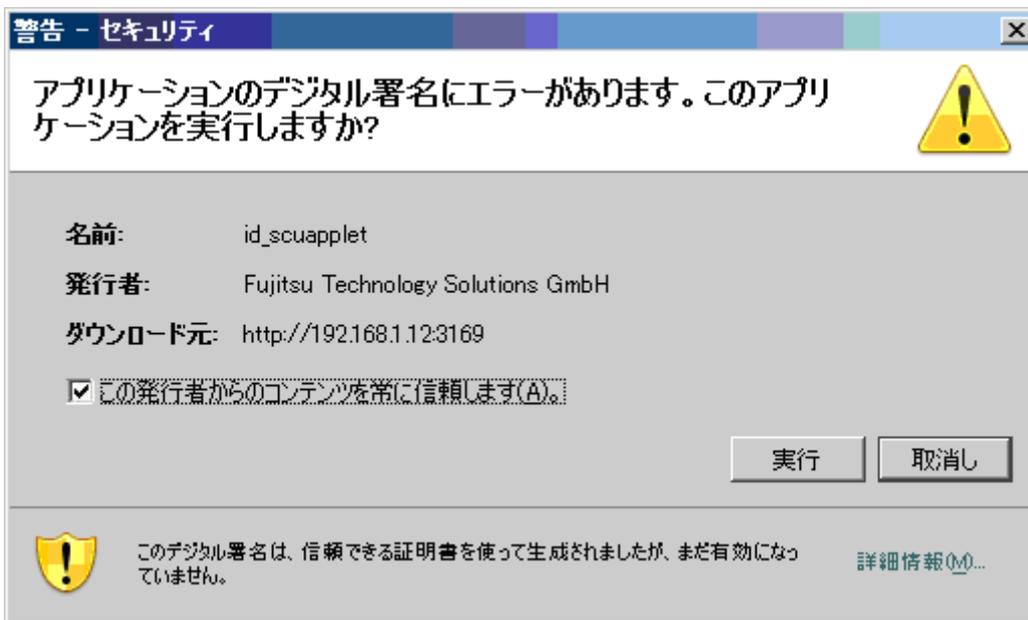
インストール完了後、文字化けが発生した場合には、下記手順を行い、問題を解消することができます。

1. 「スタート」-「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「コントロールパネル」に表示されている「時計、言語、および地域」の「表示言語の変更」をクリックします。
3. 「地域と言語」ウィンドウの「形式」タブをクリックします。
4. 「形式」を選択し、一度日本語以外の言語を選択した後、「日本語(日本)」に再設定します。

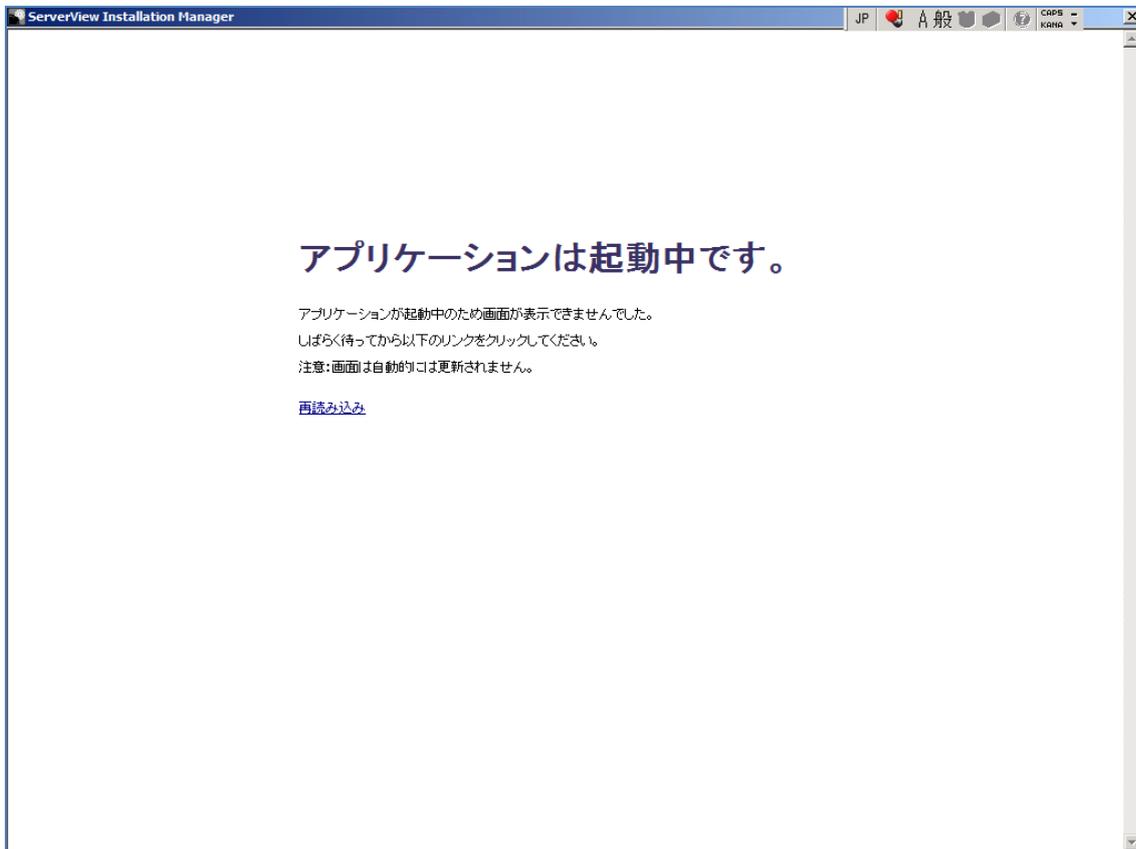


#### (4) Server Configuration Manager 起動時の警告メッセージについて

リモートインストールにおいて、Server Configuration Manager を起動し設定を行う際に、下記のようなデジタル署名に関する警告メッセージが表示されることがあります。警告メッセージが表示された場合は、「この発行者からのコンテンツを常に信頼します(A)」にチェックを入れて、「実行」を選択してください。



- (5) ServerView Installation Manager 起動中に表示されるメッセージについて  
SVIM を起動中に下記メッセージが表示される場合があります。  
メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



**(6) ServerView Operations Manager は、「ServerView Suite」パッケージグループ配下に表示されます**

V10.10.10 以降の SVIM では、「Software Packages for JAPAN」パッケージグループ配下には表示されません。ServerView Operations Manager は V10.10.10 以降各国語共通版となり、「ServerView Suite」パッケージグループ配下のメニューに統合されました。

**(7) Red Hat Enterprise Linux 6 指定時の[—]の意味**

OS の選択画面で Red Hat Enterprise Linux 6 を指定する場合のリストボックス内の[—]は 6.0 を意味します。

**(8) Red Hat Enterprise Linux のリモートインストールにおける留意事項**

リモートインストール機能を使用して Red Hat Enterprise Linux をインストールする場合は、Linux サーバを FTP/HTTP サーバとすることを推奨します。

Windows サーバを FTP/HTTP サーバとして使用する場合は、以下に注意して操作を行ってください。

- ① Red Hat Enterprise Linux ディストリビューションディスクを Windows サーバにコピーする際に、ファイル名が 63 文字に切り詰められます。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

例として下のようにファイル名が切り詰められます。

正しいファイル名

jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38 (63 文字に切り詰められます)

- ② Red Hat Enterprise Linux 6 について

Red Hat Enterprise Linux 6 の OS メディアを DVD ドライブに挿入し、下記コマンドを実行してください。

```
xcopy [DVDドライブ]:¥ [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ] /s/e/v/h/i
xcopy [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ]¥Server¥repodata [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ]¥repodata
/s/e/v/h/i
```

**(9) Red Hat Enterprise Linux のパスワードにシングルクォーテーションを使用できません**

SVIM で Red Hat Enterprise Linux のパスワードにシングルクォーテーションを指定できません。ただし、「root パスワードの暗号化」を指定する場合はシングルクォーテーションを指定できます。

**(10) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください**

SVIM の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目がチェックされた状態になっています。チェックをはずしてインストールを行ってください。チェックを外さずにインストールすると、インストール完了後に時間が 9 時間ずれた状態となります。その場合は時間を再設定してください。

**(11) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください**

テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面)で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

**(12) Windows Server 2008R2 に SP1 を適用するには時間がかかることがあります**

Windows Server 2008 R2 をインストールする際に、ServicePack1 を単体のメディアでインストールする場合には機種によって数時間かかることがあります。

**(13) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です**

5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。

**(14) Windows Server 2008 R2 に SP1 を適用するには Disk 空き領域が 9GB 以上必要です**

空き領域が不足する場合は、SVIM での OS インストール処理後に 9GB 以上の空き領域を確保してから、手動で SP1 の適用を行ってください。

**(15) 32GB の SSD には Windows Server 2008 / R2 をインストールすることができません**

インストール処理時に一時的な作業領域が必要なため、Windows Server 2008 / R2 をインストールするには、32GB の SSD は容量不足となり使用できません。

**(16) Windows のリモートインストールにおける留意事項**

iRMC 搭載機種にリモートインストール機能を使用して Windows をインストールする場合は、「ターゲットシステムの選択」画面において、iRMC の IP アドレスを必ず設定してください。設定しない場合、インストールが途中で停止し自動で継続しない場合があります。

**(17) Windows Server をインストールする際のデフォルトパーティションサイズ**

SVIM V10.11.06 でインストールする際のデフォルトパーティションサイズは以下です。

Windows Server 2003 R2: 15360MB

Windows Server 2008 / R2: 33792MB

Windows インストールに必要な最低パーティションサイズはデフォルトサイズと同一値です。

**(18) Red Hat Enterprise Linux OS で HDD の全容量をパーティションに割り当てる方法**

Red Hat Enterprise Linux OS で HDD の全容量をパーティションとして割り当てるには「RAID とディスクの構成」画面で残り容量より十分小さい値(たとえば 1MB)をサイズ欄に指定し、「最大容量まで使用」を選択してください。

**(19) ボリュームライセンスメディアのプロダクトキーの入力について**

- Windows Server 2008 / R2 の場合  
SVIM の設定時にプロダクトキーを入力しないで下さい。  
インストール終了後に、インターネットを経由して Microsoft のライセンス認証サーバに対してライセンス認証(アクティベーション)を行ってください。  
MAK プロダクトキーはこのときに入力します。
- Windows Server 2003 R2 の場合

SVIM の設定時にプロダクトキーを入力してください。

## (20) Windows Small Business Server 2011 Essentials のインストール手順について

Windows Small Business Server 2011 Essentials をインストールする場合、以下のように選択してください

ガイドモードでは以下のように操作します。

- ①初期画面の言語選択では「Japanese」を選択します。
- ②OS 選択画面では「Windows SBS 2011 Essentials」を選択します。
- ③インストールイメージの選択画面ではセットアップ言語を「Default」のままとします。
- ④基本設定画面の「地域と言語の設定」は「English」のまま変更できません。
- ⑤OS インストール開始後、SBS 設定で

「サーバの言語として日本語を使用する」を選択します。

「国または地域」「時刻と通貨」「キーボードのレイアウト」で「Japanese」を選択します。

クイックモードでインストールを行う場合は、③、④のステップは表示されませんが、そのままインストールを行います。

Windows Small Business Server 2011 Essentials のインストール後、キーボードの「規定の言語」が「日本語(日本) - 日本語」に設定されます。

「日本語(日本) - Microsoft IME」に設定するには下記手順を行ってください。

- 1.「スタート」-「コントロールパネル」-「地域と言語のオプション」を開きます。
- 2.「キーボードと言語」のタブから「キーボードの変更」をクリック
- 3.「規定の言語」で「日本語(日本) - Microsoft IME」を選択し「適用」をクリックします。

## (21) ストレージブレードはシャーシから外してインストールしてください。

ストレージブレードに OS をインストールしない場合は、インストール前にストレージブレードをシャーシより外してください。インストール完了後ストレージブレードを挿入し、ご使用ください。

## (22) Server Configuration Manager の処理が停止する場合があります

Server Configuration Manager の設定において画面遷移の際に処理が停止する場合があります。

この現象が発生した場合は「キャンセル」をクリックし SVIM のスタートページに戻ってください。

Server Configuration Manager の設定は SVIM では行わず OS インストール完了後、SVOM から行ってください。

## (23) PCI カード多数搭載時に SVIM の起動に時間がかかる場合があります。

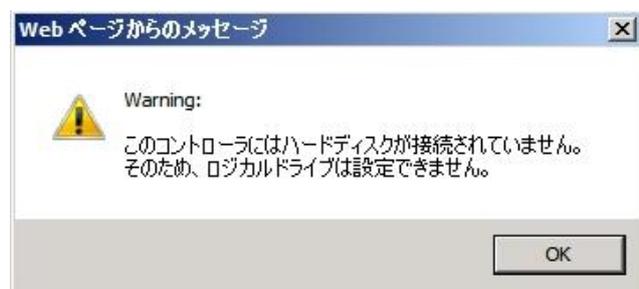
PCI カードを多数搭載した場合 SVIM の起動に数時間かかることがあります。

## (24) Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) を UEFI モードでインストールする場合の留意事項

Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) を UEFI モードでインストールする場合は、/boot および/boot/efi をそれぞれマウントポイントとするディスクパーティションを作成することはできません。

## (25) ハードディスクを接続しない RAID コントローラーが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。

RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラーが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



(26) Red Hat Enterprise Linux 5、かつ、パッケージグループ:仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合の手順について

Red Hat Enterprise Linux 5、かつ、パッケージグループ:仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、以下のように選択してください。(i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)

- インストールモードの選択

- ① [ガイドモード] を選択します。

- パッケージ選択手順

- ① [インストール番号:] を入力します。
- ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。
- ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。

- Native Kernel

- ブートローダ手順

- ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。
- ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。

(27) Windows Server 2008 / R2 を UEFI モードでインストールするには、手動で RAID を構築してください。

Windows Server 2008 / R2 を UEFI モードでインストールする場合、SVIM での RAID の構築はできません。予め手動で RAID 構築をしてください。

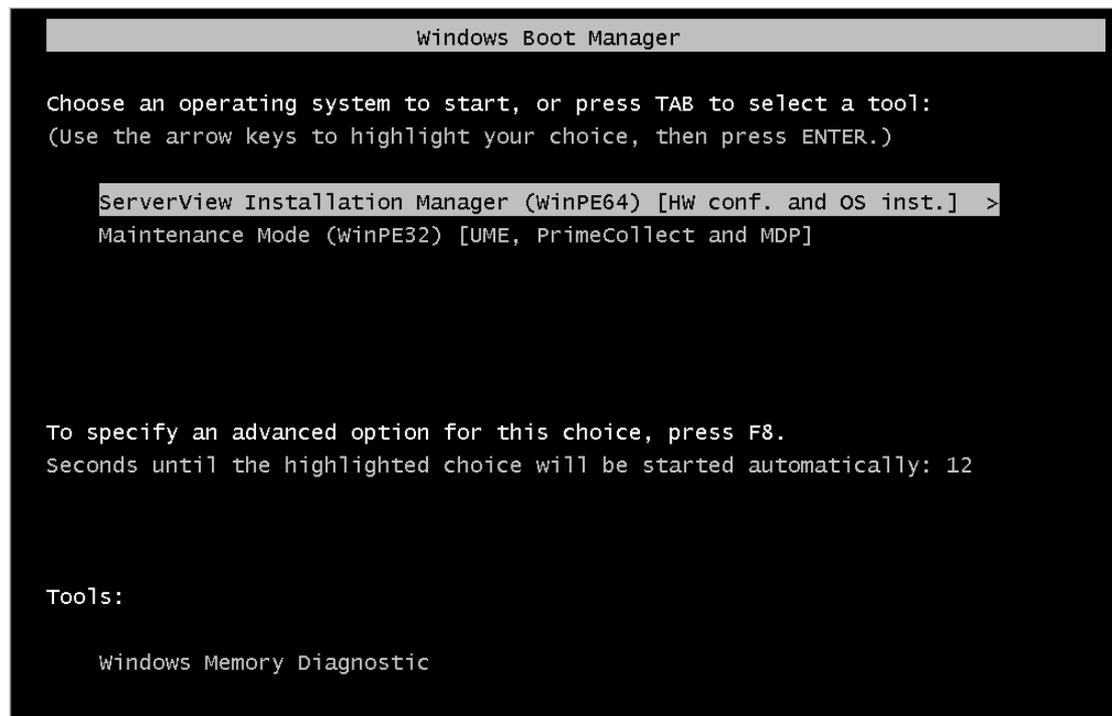
(28) UEFI モードでインストールする際は、RAID コントローラー1台構成で実行してください。

複数の RAID コントローラーが接続された状態ではインストールが失敗することがあります。

(29) SVIM の起動後 Windows Boot Manager 画面が表示されます。

ServerView Installation Manager を使用する場合は「ServerView Installation Manager (WinPE64)」を選択してください。

Update Manager Express, PrimeCollect, MDP を使用する場合は「Maintenance Mode (WinPE32)」を選択してください。



なお UEFI モードでシステムを起動した場合はこの画面は表示されません。

(30) OS をインストールするには UEFI モード・BIOS モードに気を付けてください。

UEFI モードに対応している OS を UEFI モードに対応している装置にインストールする場合は OS を UEFI モード、

BOIS モードどちらでもインストールすることができます。ServerView Suite DVD1を起動する際に UEFI モードで起動すると UEFI モードで、BIOS モードで起動すると BIOS モードでインストールされます。

UEFI モードに対応していない OS を UEFI モードに対応している装置にインストールする場合は、UEFI モードで ServerView DVD1を起動するとインストールが失敗することがあります。

UEFI モード、BIOS モードの起動方法はサーバの機種によって異なります。それぞれのハードウェアのマニュアルを参照してください。

以上